



「新しい認知症観」とは？

認知症施策推進基本計画

認知症 + 軽度認知障害(MCI) = 推計 **1,000万人超**
(2022年 厚生労働省研究班)

重点目標 (今後5年間)

- ① 国民一人一人が「新しい認知症観」を理解
- ② 本人の意思尊重
- ③ 地域で安心して暮らす
- ④ 新たな知見・技術の活用



認知症になる人は増え続けていて、3年前、2022年の段階で認知症と、認知症の前の段階で「軽度認知障害」の人の合計は、推計で1000万人を超えています。

基本計画では「今や誰もが認知症になりうる状況」で、一人ひとりが自分ごととしてとらえていく時代だとしています。計画には、今後5年間に重点的に取り組む4つの目標が設けられ、中でも1番目に「国民一人一人の「新しい認知症観」の理解」が掲げられています。



テレビやネットなどで認知症に関する情報を目にすることが多くなってきました。

高齢化に伴って認知症の人が増え続ける中、2023年には「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」(通称「認知症基本法」)が制定され、2024年12月には、政府の閣議決定によって、国の認知症施策の方向性などを定めた基本計画(通称「認知症基本計画」)に「新しい認知症観」という考え方が盛り込まれました。耳慣れないことばですが、ひとことでは、これまでの認知症に対する誤解や偏見をあらため、**これまでの認知症に対しても希望を失うことなく暮らし続けることを目指す**、という考え方です。

認知症になったら何もできなくなるのではなく、認知症になってからも、一人一人が個人としてできること、やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりを持ち、希望を持って自分らしく暮らし続けることができる。

認知症と言うと、症状が重い人を大変な中で介護しているという人も多く、そういうイメージがあると思います。一方で、症状の程度や状態は人それぞれで、適切な支援があれば日常生活ができる人は珍しくありません。認知症と診断を受けてから、症状が進んで介護などが必要になるまでに長い時間があるという人も多いのが実情です。

また、症状が重くなる前から地域の人たちや専門職などとの関わりを持って過ごしていれば、いざ症状が進んできても、本人の人となりなどをわかったうえでサポートにつながりやすく、最期まで自分らしく、尊厳を保って暮らししていくことにもつながります。

わくわく♪ロマンディスコ♪

1960年代～1990年代にかけて流行した、ダンスホール「ディスコ」・・・荻野目洋子さんのダンシングヒーローが再ブレイクするなど、その昔のディスコ・ミュージックがリバイバルブームでもありますね。

そんなディスコを福祉施設で行うイベントが「ロマンディスコ」です。

参加された皆さんは「ノリノリ」で、希望者にはオシャレなメイクを施すプロフェッショナルなサービスなどもあり、「ココロとカラダがワクワクと揺れる」ひとときを満喫♪

介護施設がディスコに？！



コラルトでは早速、主催者の大滝さんとコンタクトを取り、地元新宿での開催実現に向けて動き始めます・・・是非、一緒に楽しみたいですね♪

早くも一年の半分が過ぎ、五大節句のひとつである「七夕まつり」の季節になりました。

このところは、梅雨がどこかに飛んで行ってしまったかのように、暑い日が続いていますね。

私は出かけるときにリュックを背負っているのですが、リュックの背の部分にステンレス製の薄手の保冷剤を仕込んでおくと、「ひんやり」快適に移動することができるので、おススメですよ♪

ただし、日傘や帽子など直射日光への対策はお忘れなく！(たいこん)

★参加無料★「コラルトの認サポ」大好評開催中！

次回開催は2025年7月26日(土)18:00～19:30です！

※お申込は右のコラルト公式LINEのQRコードから、お気軽にどうぞ！

公式WEBからもお申し込み可能。(本新聞のバックナンバーも是非ご覧ください！)

コラルトWEB



公式LINE

